

ミナミハンドウイルカで見られる皮膚病変について (2)

先日、「夏は紫外線が多く、そして冬は外気の乾燥が強まるので、スキンケアを重視する傾向にあるが、実は1年を通して、肌の調子が乱れやすいのは秋である」との記事を読みました。原因は、昼夜の気温差が大きいこと、夏の疲労残存など様々なようです。

個体識別番号：#48
2014年7月17日撮影



以前、イルカの皮膚病についてご紹介しましたが（イルカ通信 No.66）、その症状も色々あるようです。今回は上の写真のように、ブツブツが広がった状態の個体について書きましたが、今回はまた違った症状についてのお話。

個体識別番号：#9
2016年5月21日撮影



上の写真は「ザック (#009, ♀)」の右体側を撮影したものです。右胸ビレの上の白丸で囲った部分が、だだれているのがわかりますか？ #48 の個体とは少し、症状が違うようです。これまでの調査記録を遡ってみると、2014年頃から、少しずつ病変部が広がってきているようです。このように、かぶれたり、皮膚が擦れているような個体は他にもいて、「U スター (#275, ♂)」の左体側も少し擦れているように見えます。



個体識別番号：#275
2016年9月6日撮影

ブツブツとは違う症状なので、少し資料を探してみたところ、興味深いものを見つけました。それは、このようなかぶれや擦り傷のような病変に、コバンザメが関与しているのではないかと。資料を読むと、カナリア諸島のハンドウイルカでは、コバンザメの付着が確認されると、その付着部分から異変が見られると記述があり、また別の資料では、タイセイヨウマダライルカにおいて、皮膚病変が見られる個体にはコバンザメが付いていることが多いと述べています。確かに#9と#275の写真を見ると、2頭とも腹部にコバンザメが付着しています。これは偶然なのでしょうか？

コバンザメの吸着盤は背ビレが進化したもので、付着した際に皮膚を傷つけることで、このような症状を引き起こしていると考えたり、さらには真菌による感染や様々な症状を引き起こすと考えている研究者もいるようです。これまでマッコウクジラやヒゲクジラ類に付着しているのを見たことがありますが、いずれもイルカで見られるような病変は見たことがありません。この原因については、ハッキリとは結論づけられていませんが、小笠原で見られる個体についても調べてみる必要があるようです。

人間もイルカもお肌の調子が悪くなる原因は一つではないようです。もしイルカを観察していて、何か変だなという個体を見つけたら、是非 OWA までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

(参考資料)

1. Unresolved skin anomaly in a bottlenose dolphin
<http://www.m-e-e-r.de/index.php?id=511&type=8&L=2>
2. Herzing, D. (2011) Dolphin diaries: my 25 years with Spotted Dolphins in the Bahamas, New York, St. Martins Griffin.